

権利擁護／虐待防止

事例検討編②

②「顕在化」している虐待行為」と「潜在化している虐待行為」

この教材のねらい

今回、配信する教材はある一つの事例を使って、さまざまな視点から考えて「虐待行為」について理解を深めていくものである。

この教材は、顕在化している虐待行為の背景には潜在化している虐待行為があることに気がつくことをねらいとする。

研修の進め方①

まずは、次の事例を読み上げます。

事例(ある職員Aが受けた説明)

Aさんはパートとして週に4日特別養護老人ホームで働くことになりました。主に認知症の人が入居しているフロアで、入浴介助と昼食の食事介助が主な業務です。このフロアでは、新卒の若いスタッフと年配のベテランのスタッフが半々くらいの割合で働いています。

食堂で利用者の食事介助をしました。その時にこちらを向いて食事をしている車イスのBさんがいました。Bさんの斜め前にはベテランスタッフのCさんがBさんの様子も見ながら、他の利用者の食事介護をしています。Bさんは自力摂取で食事をしていました。Bさんは食堂の壁を背にして座っています。よく見てみると、Bさんのすぐ後ろに壁があるように感じました。

近くの新人スタッフのDさんに尋ねると、「Bさんはすぐに車イスから立ち上がろうとするので、テーブルで立ち上がれないように押さえているんです。前に車イスから立ち上がろうとして転倒したことがあって、家族からは立ち上がれないようにしてくださいと頼まれています」ということでした。それで、車イスで後ろに下がろうとしてもすぐに壁にぶつかって動けないようにしてあるんだと理解できました。

事例(続き)

居室ではどうしているのかDさんに尋ねると、「うん、Bさんの部屋はナースセンターの真向かいの部屋なんですけど、すぐに動いたかどうかがわかるように掛け布団の足元やくつに鈴を付けているんです。鈴の音が聞こえたら、大急ぎでBさんの部屋に向かいます。本当はセンサーマットか何かがあればいいんだけど、今は他の人に使われちゃっているので、鈴で対応しています。

Bさんが動こうとしたようです。ベテランスタッフのCさんの「ちょっと待ってて、まだこっちのご飯が終わってないから。もうちょっとで終わるから、それまで待ってて。終わったら、テーブルをどかしてあげるから。待っててって。だから、終わったらどかしてあげるからって言うてるでしょ！」という大きな声が聞こえてきました。

研修の進め方②

次の質問を参加者に投げかけます。参加人数がそれほど多くない場合は、一人ひとりに順番に答えてもらいます。

①「顕在化している虐待行為」は何だと思えますか？

※うまく答えが出てこない場合は、「前回と同じような答えでも構いません」と投げかけます。

②「潜在化している虐待行為」は何だと思えますか？

※うまく答えが出てこない場合は「このまま放っておくとはっきりした虐待になりそうな行為がないかどうか考えてみましょう」と投げかけます。

個人ワーク(10分)

職員Cさんはどのような虐待をしたと
思いますか？

職員Cさんがしたと思われる虐待行為について、整理しましょう。

1)「顕在化している虐待行為」は
何だと思いますか？

2)「潜在化している虐待行為」は
何だと思いますか？

研修の進め方③

参加者に答えてもらったら、グループワークに入ります。

グループワークのテーマ・・・「この事例において見える虐待行為と見えない虐待行為について考える」

・参加者はそれぞれの虐待行為について意見を出し合い、話し合っていきます。

☆このグループワークのねらいは、見えない虐待行為について気づくことです。それは、見える虐待行為の裏側に何があるのか考えていくことにつながります。Bさんや主任がなぜそんな行為やそんなことを言ったのかと考えることで、彼らの考え方や態度のあり方に気づいていくこととなります。話し合いを進めていく中で、「何もしないという行為」についても気づいていくこととなります。そのために、「正解は〇〇だ」ということを決めていくことではありません。

* グループワークをしている中で、話題が全く違うものへとずれていかなければ、話し合っている内容を修正する必要はありません。話し合いをしていく中で、自分たちの職場で起きうる虐待行為についての意見交換や過去にあった虐待行為についての情報交換になることが多くなると考えられます。

グループワーク(10分)

3)この事例から、見えない虐待行為について話し合ってみましょう。

研修の進め方④

- ①話し合いが終わったら、各自でワークシートに「潜在化している虐待行為」を記入してもらいます。
- ②記入が終わったら、それを一人ひとり発表してもらいます。
- ③ワークシートを回収して、全員の考え方を整理して、フィードバックして、研修は終了です。

個人ワーク(10分)

4) ワークシートに「潜在化している」虐待行為を記入しましょう。

この教材を終えるにあたって

虐待行為は、個々の職員の意識と職員間のコミュニケーション不足が増えていく過程の中で起きていくものだと考えられます。

「忙しいから仕方がない」とするのではなく、「忙しい時はどうすればよいのか」と日頃からみんなで考えておくことが、虐待行為の防止につながることをしっかりと認識しなければなりません。

お疲れさまでした。

教材作成

北海道総合福祉研究センター
理事長 五十嵐教行